

子どもを対象とした引き馬体験の経済的価値に関する予備的検討

中村圭吾・野瀬 出・柿沼美紀

日本獣医生命科学大学 比較発達心理学研究室

【目的】

日本において動物介在介入を普及させるためには、経済的活動として成立させることが重要である。動物介在介入は一定の需要はあるものの、無償でサービスが提供されることも少なくはない。しかし、その活動を継続させるためには、動物の飼育管理費やスタッフの人件費等を捻出する必要がある。本研究では子どもを対象とした引き馬体験の経済的価値について予備的調査を行った。引き馬を実施する環境や、保護者である回答者の属性により、引き馬体験に対して支払おうと思う費用がどのように影響されているのかについて Web 調査により検討した。

【方法】

対象は、日本に在住している 3～10 歳の子どもがいる成人 300 名であった（男性 143 名、女性 157 名、26～60 歳、平均年齢 42.2 歳）。子どもについては、男性 146 名、女性 153 名（平均年齢 6.6 歳）であった。データ収集は Web 調査会社（クロス・マーケティング）に依頼した。参加者には Web 画面上で調査内容について説明し、参加の承諾を得た。回答は匿名で行われた。データ収集期間は 2022 年 8 月 31 日～9 月 2 日であった。

調査では、まず引き馬について説明し（ポニーに乗ってスタッフが綱を引きながら 5 分程度歩く体験）、(1) 近隣施設での引き馬、(2) 近隣施設での馬の世話（餌やり、馬房の清掃）、(3) 公的施設（幼稚園・小学校）での引き馬、(4) 観光で訪れた施設での引き馬を子どもに体験させたいかを尋ねた。そして体験させたいと回答した者のみに対して、その引き馬体験に払える費用について多肢選択方式（0 円～3,000 円以上、9 段階）による回答を求めた。また近隣施設での引き馬については、参加しようと思える片道の移動時間（10 分以下から 3 時間以上、5 段階）、参加しようと思う頻度（1 回のみ参加～週に 4、5 回参加、6 段階）についても尋ねた。

さらに回答者自身および子どもの乗馬経験、自宅でのペット飼育、回答者が小学生の頃の自宅でのペット飼育・学校での動物飼育、余暇活動（動物園、遊園地、スポーツ施設、家族旅行等）の頻度について回答を求めた。質問票には、他にも回答者と子どもの性別・年齢、居住地、職業、世帯年収に関する質問が含まれていた。

【結果】

データ解析の結果、体験させたいと回答した人の割合は、近隣施設での引き馬 (69.0%)、近隣施設での馬の世話 (69.0%)、公的施設での引き馬 (77.3%)、観光施設での引き馬 (71.3%) であった。体験させたいと答えた人が支払える費用の中央値は全ての条件で 500 円であり、平均値 (3,000 円以上は 5,000 円として計算) は近隣施設での引き馬 (869.1 円)、近隣施設での馬の世話 (668.5 円)、公的施設での引き馬 (565.1 円)、観光施設での引き馬 (812.2 円) であった。近隣施設の引き馬を体験させようと思える移動時間は 30 分程度 (46.4%)、頻度は年 1 回以下 (34.8%) が最多であった。

次に、回答者の属性による近隣施設での引き馬に支払える費用の違いについて検討した。引き馬体験に支払える料金と世帯年収との関係を調べたところ、世帯年収が増えるほど、近隣施設での引馬体験に払う料金が高くなる傾向があった (世帯年収 300 万円未満 : 484.2 円、300~500 万円 : 807.7 円、500~700 万円 : 756.9 円、700~1,000 万円 : 909.4 円、1,000~2,000 万円 : 1131.4 円)。

乗馬経験の有無に関しては、保護者の乗馬経験が豊富なほど、近隣施設での引き馬体験に対してより高い料金を支払う傾向があった (経験なし : 828.7 円、引き馬経験あり : 844.3 円、自分だけで馬を歩かせる経験あり : 940.0 円)。

動物の飼育経験に関しては、現在自宅に何らかのペットを飼っていると、近隣施設での引き馬体験により高い費用を支払う傾向が認められた (ペット飼育あり : 1054.5 円、飼育なし : 782.3 円)。回答者が小学生の頃の自宅や学校での動物飼育経験は費用に大きな影響を与えていなかった。

余暇活動との関係については、どのような活動であっても全般的に余暇活動の機会が多い回答者のほうが料金を高く支払う傾向があった。例えば、遊園地・テーマパークを訪れる頻度別の料金は、行かない (785.0 円)、年に 1 回以下 (837.7 円)、半年に 1 回 (954.1 円)、2、3 ヶ月に 1 回 (1031.2 円) となっていた。各余暇活動の頻度と世帯年収との関連性は低かった (順位相関係数 = .018~.170)。

【考察】

本調査の結果、5 分間の子どもの引き馬体験に対しては、多くの人々が 500 円を支払える金額と考えていることが明らかになった。ただし、引き馬体験の経済的価値は、様々な条件により影響を受けており、特に保護者の乗馬経験や家庭でのペット飼育、高い世帯年収により支払い額が増加する傾向が認められた。普段から動物との接触機会が多い人ほど、引き馬体験に対してより高い経済的価値を認めている可能性がある。今後は様々な条件を変えて同様の調査を実施することで、経済的価値の増減に関わる要因についてさらに検討していく必要がある。